

支え合うプラン取組推進事業の開始について

地域共生社会の実現に向け、今年度から「支え合うプラン取組推進事業」を実施します。以下の通り受託者が決定し、事業を開始しました。

1 事業目的

くるめ支え合うプランに掲げる「支え合うところあふれるまち くるめ」の実現のため、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの両輪で支え合う仕組みづくりを進めています。この事業では、様々な課題を抱えながらも、住民が自分たちで暮らしを支え合っているような関係性を幅広い世代で育み、それを持続できる方策を企画・実践していきます。

2 受託者と契約期間

(1) 受託者

チエツク プロジェクト
Chietsuku Project・社会福祉法人 拓く共同事業体

(2) 契約期間

令和3年6月7日から令和4年3月31日

3 事業の内容

課題が多様化・複雑化した地域社会に「未来に目を向けた新たな価値観」を生み出し、「久留米らしい支え合いの文化」を育むプラットフォーム（関わり、交じり合う場や機会）を創造します。受託者は、福祉分野とまちづくり分野から領域を超えて共同体を結成。独自の視点や発想、それぞれの立場からの対話を生かし、同プランに記載している課題の解決を目指します。

【具体的な取り組み】

- *企画会議「新地福委員会」：上記事業の全体を俯瞰し、方向性を企画・検討する。受託者や市に加え、地域のさまざまな人や団体など、多世代・多業種で対話。地域福祉に大切な視点の可視化と言語化を行い、多くの人と共有できる方法を見出す
- *プラットフォーム未来会議：次世代を担う若者（児童・生徒・学生）と地域の企業や団体・場とをつなぎ、悩みや問題意識、感性を共有。どうすれば若者に響き共感を生むことができるかを共に考え、アクションにつなげる
- *みんなのもしも：「支え合いの場や機会」に自分ごととして関わる人が増えるよう、「防災」「感染症」を題材に対話を深めるプラットフォームづくりを推進
- *地福 TV：各事業の発信と交流をオンラインで行う。情報を伝播して関わる人を増やし、実感と共感を連鎖させることが狙い。久留米発のオンライン交流企画「くるめオンライン公民館」と事業連携

